



ゴバンノアシについて説明する下地さん(右)と川満さん(中)、金子さん=下地字上地の川満さん宅前



美しい花を咲かせるゴバンノアシ=宮古島環境クラブ提供

ゴバンノアシがこのほど、宮古島の下地字上地と城辺字保良でそれぞれ1本ずつ確認されたとして16日、市下地字上地の川満アイさん(78)宅の畑で、宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)が記者発表を行った。

種子が「暮盤の足」に似ているためそう呼ばれる。海岸に流れ着く漂着種子から発芽し、高さは10メートル以上になる。マレーシアやフィリピンなどに自生し、国内では八重山諸島の一部で確認されている。

川満さんは以前民宿を経営。1984年ごろ、本土から訪れた客の1人が種子を持っており、それを畑の生け垣に植えた。剪定(せんでい)などを行ったため、樹齢27年で樹高約4・3メートルだが、それでも毎年6月ごろ

頃から美しい花を咲かせている。川満さんは「何の木か分からなかったが美しい花だったので『貴婦人』と呼んでいた」と話す。7月上旬、同クラブ会員で下地字洲鎌に住む金子導夫(69)さんが散歩中に発見した。保良にあるゴバンノアシは約11年前、東平安名崎でダイバーが果実を拾い、植えられたもの。昨年9月に同クラブ会員が発見。樹高は約5メートルで昨年から果実を実らせている。

下地さんは「2本とも自生ではないので天然記念物にするのは難しいが、市の保全種として保護してほしい。宮古で確認できたことは興味深い。今後種子を育て、市内の公園やホテルなどにも増やしていければ」と語った。



可憐な花咲かす

ゴバンノアシ

下地、城辺で確認

下地上地、城辺保良
でこのほど、サガリバ
ナ科のゴバンノアシが
確認された。サガリバ
ナと同様、一夜に限り
白くて可憐な美しい花
を咲かせる貴重な植物。
宮古島環境クラブの下
地邦輝会長らが保全を
訴えた。(9面に関連)

ゴバンノアシは、県版
レッドデータブックに記

載されている「危急種」。
自生の北限は石垣島と
される。同クラブの調査によ
ると、下地のゴバンノア

シは樹齢約27年、城辺ほ
約12年。いずれも種子を
植えたもので自生では
ない。ただ、城辺のゴバ
ンノアシは海岸で拾っ
た種子を植え付けてお
り、「宮古島の海岸で自
生している可能性もあ
る」と下地会長という。

八重山諸島の西表島
や周辺の下地島の海岸
および湿地で自生の壮
齢木がある。毎年、秋か
ら冬にかけて南から流
れ着く漂着種子が発芽、
これを育てた壮齢木が
西表島、石垣島の民家で
も見られる。

宮古島環境クラブ

ゴバンノアシ保全訴え

下地会長「宮古でも自生ある」



ゴバンノアシの保全を訴える宮古島環境クラブの下地会長(右)。会長の後方にある木がゴバンノアシ=16日、下地上地

宮古島環境クラブの下地邦輝会長らが16日午前下地上地で確認したゴバンノアシの開花

に伴う記者会見を開いた。樹齢約27年まで成長した木について下地会長は「ゴバンノアシの北

限は石垣島とされているがこのように成長した木が宮古でも確認された。宮古でも自生している可能性はある」と話し、鼻版のレッドデータブックの「危急種」に記載されているゴバンノアシの保全を訴えた。

下地上地で確認されたゴバンノアシの木は高さ4メートル以上、幹回り64センチになる。毎年のように白い花を咲かせているという。7月上旬に同クラブ会員の金子導夫さんが散歩中に確認した。

種子を植えた川満アイさんによると、サガリバナのように夜に咲いて朝になると道路や畑に落ちる。川満さんは「きれいな花で『貴婦人』と名付けていた」などと話しながら、貴重な植物の確認を喜んだ。

ゴバンノアシは城辺保良でも確認。木の高さは約5メートル、幹回り90センチに及ぶという。下地会長は「宮古では育たないと思っていたがちゃんと花と実を付けている。しっかり保全していかねばならない」と話し、行政支援も含めた保全活動に期待を込めた。

また、下地の2カ所で自生しているサキシマスオウノキの保全も訴え。「植物の形、根の働きなどを考える上でとても大事な植物生育見本として保護しなければならぬ」と話している。